【G：スポーツを守る・創る】

　45ページから46ページ

　ドーピングに関する懸念を共有するために、声を上げること（Speak UP）。

アスリートはクリーンスポーツの担い手。ドーピングに関する情報を知り得た場合、匿名で通報できる。また、通報しないように脅されたり、通報したことで仕返しされないように権利で守られている。クリーンスポーツ環境を創るために、積極的な行動をとろう。

▶この章の目標

1. スピークアップすることの重要性を、自身の言葉で説明でき、周りに共有できる。
2. 必要な時にスピークアップできる。
3. クリーンスポーツ環境を守り、創るための働きかけができる。

▶クリーンでフェアなスポーツを守るためのSpeak UP！

クリーンでフェアなスポーツを守るためには、誰もがドーピングに対して厳しい目を向け、スポーツの価値を壊すような不正行為を許さないという気持ちが大切です。ドーピングに関する情報を知り得た場合、適切な窓口へ情報提供をしましょう（Speak UP）。それらの情報によって、アンチ・ドーピング機関によるドーピング調査やインテリジェンス活動（ドーピング検査では捕捉できない違反行為の特定や、ドーピング検査の精度を高めるために行う情報収集、分析及び評価活動）等が行われ、ドーピング検査だけでは発見できない違反を見つけることにつながります。

▶ドーピング行為を通報しても、通報者は必ず守られる。

アスリートは、見、聞き、知り得たドーピング行為を、いつでも・安全に通報できます。また、通報しないように脅されたり、通報したことで仕返しされたり、不利益を受けないことも、権利で守られています。クリーンスポーツのためにドーピングを通報する人を妨害したり、いやがらせをする行為はアンチ・ドーピング規則違反です。

▶ケーススタディ：あなたならどうする？

［ケース1］コーチからドーピングを強要された！

コーチから「勝ちたければ黙ってこれを飲め」とドーピングを強要された。断ったところ「それならお前は代表から外す」と言われた。どうしたら良い？

　（A）勇気を持って通報！

　（B）ここは黙って従うしかない。

　→（Aを選択）通報しても自身の立場が守られることはアスリートの権利。無事クリーンスポーツに貢献できた。

　→（Bを選択）ドーピング検査で陽性。資格停止でトレーニングも大会への参加もできなくなってしまった。

［ケース2］ドーピングをしているところを見てしまった！

アンチ・ドーピング機関から「アンチ・ドーピングに関する調査に協力してほしい」という旨のメールが来た。何を聞かれるんだろう…。

　（A）知っていることは正直に話そう。

（B）チームの不利益になるかもしれないので話さないでおこう。

→（Aを選択）正直に話し、問題が早期解決するための力を貸すことができた。

　→（Bを選択）数か月後、チームメイトからドーピングを誘われた。あの時、自分の情報でこのような状況を回避することができたのかな。